



# PISA

IN FOCUS

27

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

## 通っている学校は生徒の成績に影響を与えるのだろうか。

- 成功している教育システムは、すべての生徒が高水準で成功することを保証できる。
- OECD加盟国全体で、各生徒の成績における全体的な国レベルの分散のおよそ60%は、同じ学校に通う生徒たちにどの程度優れた成績を収めることを期待できるかにおける違いに起因する。
- OECD加盟国の各生徒の成績における分散のおよそ40%は学校間に見られるが、好成绩の国々の間では、成績における違いは平均的なOECD加盟国の場合よりも一般に小さい。

すべての生徒と学校で  
高い到達度が可能である。

国又は地域のPISA調査における得点は、その国の生徒たちの平均成績、ひいてはその生徒たちが十分に社会に参加し、知識基盤

化が進む世界経済に意義深い貢献をする能力を示している。PISAを通して集められたデータの分析では、特定の国・地域において、あるいは特定の学校であっても、その生徒たちの読解力、数学及び科学における能力がどの程度異なるかについても明らかになる。まさに教育システムごとに成績の平均が著しく異なるように、各生徒の成績における差又は分散も異なる。ほとんどの生徒たちの能力が同レベルの教育システムもあれば、生徒たちの成績に広い分散が見られるシステムもある。

PISAの結果分析は、国・地域が、各生徒の成績において格差を抑え、高水準の成績を達成できることを示している。例えば、韓国と上海の教育システムは、読解力の成績が平均以上であるだけでなく、成績が最上位の生徒と最下位の生徒たちの得点の差も比較的小さい。この特徴を共有する教育システムは、これだけではない。読解力の成績が平均を上回る17の国・地域のうち10の国と地域で、OECD加盟国全体に見られる平均的な分散よりも成績の分散が小さい。

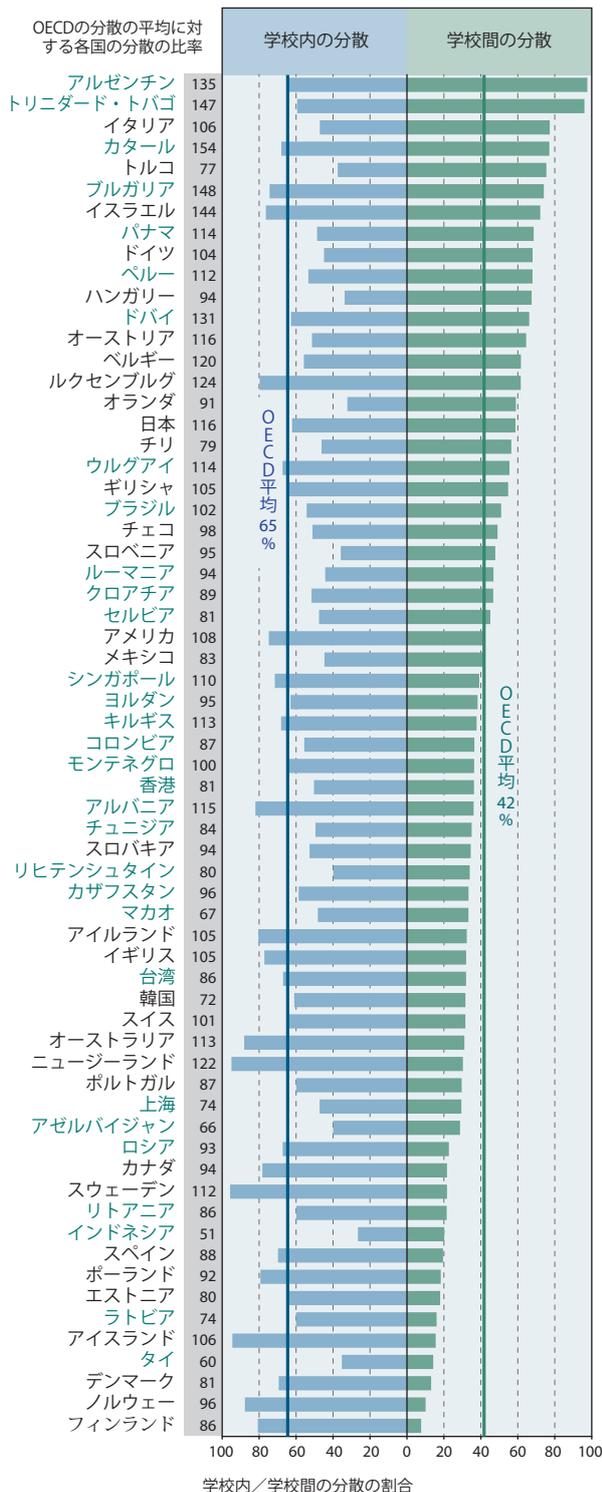


# PISA

## IN FOCUS

### 生徒の読解力の成績における 学校間/学校内の分散

OECD加盟国での生徒の成績における  
分散の割合



### 各学校の成績は互いに大きく異なっている…

国・地域ごとに各生徒の成績の分散の原因が異なる。この分散は同じ学校に通う生徒たちの成績の差によるものだろうか、それとも別の学校に通う生徒たちとの差なのだろうか。OECD加盟国全体で、各生徒の成績における全体的な国レベルの分散のおよそ60%は、同じ学校に通う生徒たちがどの程度優れた成績を収めることを期待できるかの差に起因する一方、全体的な分散のおよそ40%は異なる学校に通う生徒たちの予想される成績の差に帰すると言える。好成績の国々の中で、学校間にかなりの違いが見られるのは、ベルギー、日本、オランダの3か国のみである。各生徒の成績の差異において学校間の違いが占めるのは、フィンランドではわずか8%、ノルウェーで10%、また、エストニア、アイスランド及びポーランドでは20%未満である。学校間で成績の分散が大きいことは必ずしも学校間の不公平さが大きいことを意味しないが、生徒と学校の成績における大きな格差は、そうした差が、社会経済的地位、移民の背景、家庭内言語など、学校又は生徒の特徴と関連している場合、許容できない社会的不公平を示唆しているのかもしれない。

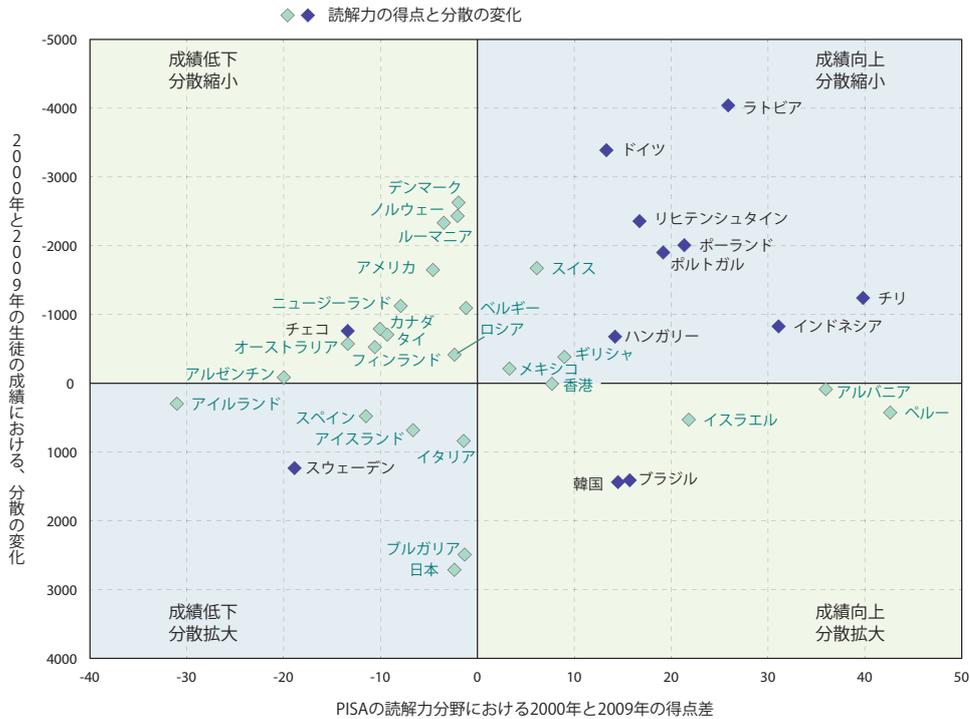
注：国は、学校間の分散の大きい順に並べている。

出典：OECD PISA 2009 database, Table II.5.1.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932343627>



2000年と2009年の生徒の成績における、読解力全体の得点と分散の変化



注:分散の変化と読解力得点の変化の両方が統計学的に有意なものは、濃い色で示している。

出典: OECD PISA 2009 database, Tables V.2.1 and V.4.1.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932360005>

…そして、幾つかの教育方針がこうした差を拡大する。

学校間の成績の差が生じる原因として、多くの要因が考えられる。例えば、ドイツでは、異なる学校に通う生徒たちの、予想される成績における大きな差は、教育を通し、生徒の評点に基づいて異なる進路—大抵は職業か大学教育か—へ生徒たちをふるい分ける教育システムの方針に関連している。イタリアでは、異なる学校に通う生徒たちの、予想される成績の分散は、その学校がサービスを提供するコミュニティの特徴に関連している場合が多い。これには都市の学校に通う生徒と地方の学校に通う生徒の間の社会的・経済的な違いや、州やその他の行政区画の教育システムの方針の違いなどが含まれる。成績の分散は、指導の質又は効果の違いなど、定量化が更に難しい学校システムの特徴とも関連付けられる。



# PISA

IN FOCUS

国の成績の向上は、すべての生徒の成績を向上させることによって達成できる。

PISAでは、各生徒の成績の分散が一定期間でどのように変化するかについても調査する。OECD加盟国全体で、生徒の読解力の成績における分散の平均が2000年から2009年の間に3%縮まった。この理由は、この期間中に成績が向上した国のほとんどが、成績の振るわない生徒たちの成績を向上させることによってこれを達成したからであった。読解力の平均成績が2000年から2009年の間に変化した国々の中で、チリ、ドイツ、ハンガリー、インドネシア、ラトビア、リヒテンシュタイン、ポーランド及びポルトガルは平均成績の著しい向上と各生徒の成績の分散の大幅な縮小を記録した。韓国とブラジルでは、平均成績における向

上と各生徒の成績の分散の拡大の両方が見られた。スウェーデンでは、各生徒の成績の分散が広がったことでこの期間中の平均成績が低下し、一方、チェコでは、平均成績と全体の分散の両方で水準が下がった。学校間及び学校内の分散の相対的割合は、2000年から2009年の間にほとんどの国々で同様のままだった。この期間中に成績の向上が見られた国々のうち、学校間の分散が大幅に縮まったのはポーランドのみで、これに対し、スウェーデンは大幅に拡大した。

**結論：PISAにおける国又は地域の全体的成績は、その教育システムの有効性に関する一つの基準にすぎない。学校内及び学校間の各生徒の成績の分散の程度は、教育システムが生徒たち全員に良質の教育を提供することにどの程度成功しているかを、より明確に示している。PISAの結果は、到達度の上位の生徒と下位の生徒の間の成績における隔たりを拡大することなく、好成绩又は急速な向上が達成できることを示している。**

本稿に関するお問合せ先

担当：Pablo Zoido ([Pablo.Zoido@oecd.org](mailto:Pablo.Zoido@oecd.org))

出典：OECD (2010), *PISA 2009 Results: Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes*, (Volume II), PISA, OECD Publishing.

参考サイト

[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

[www.oecd.org/pisa/infocus](http://www.oecd.org/pisa/infocus)

次回テーマ：

「都市部の学校は何が違うのだろうか」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。